

美術館魅力向上検討部会の進捗状況

教育・文化スポーツ常任委員会資料4-4
令和5年(2023年)10月5日
文化スポーツ部文化芸術振興課

【現状】

- ・1984年(昭和59年)に滋賀県立近代美術館開館。老朽化対策工事を経て2021年(令和3年)に滋賀県立美術館として再オープン
- ・近代日本画や滋賀県ゆかりの美術・工芸、戦後アメリカと日本の現代美術、さらに近年ではアール・ブリュットも加わり、全国的に見ても特徴的なコレクションを擁する
- ・びわこ文化公園の緑豊かな環境に立地。近隣に県立図書館や大学等があるほか、全国でも有数の人口増加地域であり若年層が多いエリア

【課題】

- ・展示面積に限りがありコレクションの活用が不十分
- ・収蔵庫の狭あい化
- ・関西圏の美術館をとりまく環境の変化と館の存在感の低下
- ・ギャラリーの搬入動線や展示環境
- ・公園内や近隣施設間のアクセス・流動性
- ・空調機器をはじめとした施設設備の老朽化

【近年の動き】

- ・2023年(令和5年)4月 博物館法改正(関係機関との連携、デジタル・アーカイブ、文化観光)
- ・2023年(令和5年)8月 日本財団から550件の作品寄贈を受け、アール・ブリュットに関しては世界有数のコレクションを擁することになった

【美術館魅力向上検討部会の委員の主な意見】

<ターゲティングについて>

- ・子育て層が増加している地域に立地していることから、その層へ訴求することで新たな美術館の展開が期待できる
- ・近隣の大学や福祉施設、地域等との連携を強化すべき
- ・若者などが美術館や公園で自発的に活動したくなるような展開を考えるべき
- ・多様な主体がいろいろな目的で利用できる環境を整備すべき
- ・ギャラリーの使い勝手(ハード・ソフト)を改善すべき
- ・戦略的なターゲティングが重要であり、入館料もそれに連動して検討すべき

<コレクションの活用について>

- ・作品購入に加え、他館との長期貸与なども検討し、コレクションの活用を図るべき
- ・戦後のアメリカ美術など館の柱となる作品群は、いつでも見られる状態にしておくことが重要
- ・アール・ブリュットは館の新しい軸の一つとなる
- ・県立としては展示室が狭い(県立同士の巡回展の受け入れが困難)
- ・収蔵庫の拡張は必須。具体的な場所や方法は全体計画の中で検討すべき
- ・デジタル・アーカイブの構築と発信は重要

<全体の基礎となる意見>

- ・「物理的・心理的双方で垣根を取り払う取組」や「滞在型の機能(長い時間楽しめる工夫)」が重要

<公園とのつながりについて>

- ・周辺地域だけではなく、京都・大阪方面の子育て層も公園を訪れており、その層が気軽に利用できる空間があれば強い訴求力を持てる
- ・公園に遊びに来た人が自然にアートに触れることができる工夫が重要
- ・施設間にフットパス(歩くことを楽しむ道)を整備するなど、公園内施設とのつながりを意識することが重要

<取組を進めるための土台について>

- ・新たな取組を支えるための人的・財務的な運営改善も考えるべき
- ・新たな取組を実施する際には、交通事業者等にも協力を求め広報すべき
- ・必要な施設改修はまとめて行うべき
- ・公園と一体的な取組を検討し、美術館以外にも目を向けないと実現は難しいのでは
- ・美術館を取り巻くステークホルダーに部会の議論を還元し、ワンチームで取組を進めていくことが大事